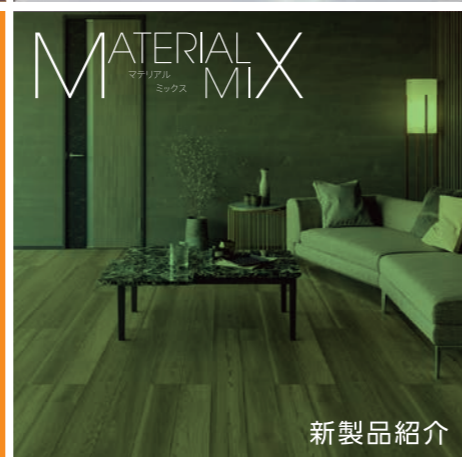
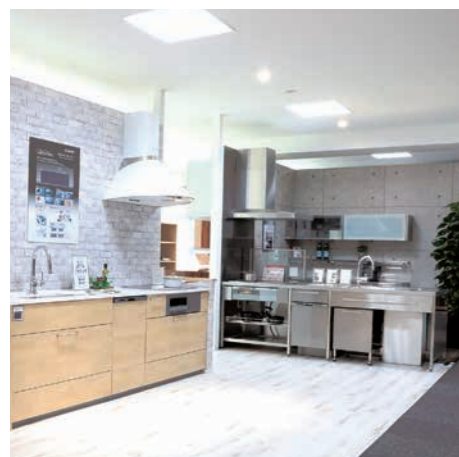


kigokoro

EIDAI Corporate PR Magazine Autumn 2019 / vol.2



kigokoro

Autumn 2019 / vol.2

第2号 令和元年10月1日発行
 編集・発行：永大産業株式会社 ヴォケインテグ部 広報課
 〒559-8558 大阪市住之江区平林南2-10-60 TEL:06-6684-3058 FAX:06-6684-3051



好きを暮らしに

Skism

スキスム



「心地いい、暮らし空間」の新提案

好きを暮らしに。
 自分スタイルの空間づくり。

しあわせを感じるの「好きなもの」との出会いから。
 好きを選んで、自由に組み合わせ、
 気がつけば、家族の笑顔がはじける心地いい暮らしがはじまります。

EIDAIの「Skism」は、自分らしい暮らしを応援。
 好みのテイストとデザインを選ぶだけで
 あなたが想い描いた、憧れの空間が手に入ります。

木を活かし、よりよい暮らしを
EIDAI | 永大産業株式会社
 www.eidai.com
 お客様相談センター
 ☎ 0120-685-110
 [受付時間] 平日・土曜日9:00~18:00(休業日:日曜日、祝日、夏期休暇、年末年始)

EIDAI ショールームでお確かめください。

EIDAI SR

検索



マテリアルミックスデザインによる施工例

WOOD × STONE

室内ドアは、飽きのこない木目を基調とし、これにスペイン産の大理石クレママーフィルをモチーフとした、温かみのあるホワイトと美しいマーブル模様の石目調ホワイトをあしらって、自然のままの雰囲気を出しました。



WOOD × LEATHER

室内ドアのベースカラーには気品のある木目調のホワイトを用い、これに使い込んだようなレザー調のホワイトを組み合わせることで、上質でモダンな空間を演出しました。



WOOD × METAL

室内ドア(左奥)とシューズボックス(右手前)には、ベースカラーに空間を引き締めるマットブラックを用いており、これにメッキの光沢が美しい金属調のヘアライン柄を組み合わせ、より個性的な空間を実現しました。



新柄 MAT NAVY(マットネイビー柄)

新製品紹介

「上等の紺」をモチーフに

当社では、スキスムブランドを通じ、様々なインテリアスタイルを提案しております。

8月26日には、より一層多様化するニーズに応えようと、艶を消した都会的な黒「マットブラック柄」に加え、爽やかさと落ち着きを併せ持つ色柄「マットネイビー柄」を新たに追加いたしました。

この色柄は、日本伝統の藍染技法でこれ以上濃く染まらない程の手間をかけた「上等の紺」をモチーフとしています。

当社が提案する濃色をアクセントとした「インダストリアル」などのインテリアスタイルにもコーディネート可能で、今年発売したシステムキッチン「ラフィーナネオ」の扉にも「マットネイビー柄」を取り揃えております。



好きを暮らしに

Skism
スキスム

MATERIAL MIX
マテリアル
ミックス

新製品紹介

マテリアルミックスデザイン

当社では、「Skism(スキスム)」ブランドの拡充を図るため、8月26日に新製品を発売しました。新製品「マテリアルミックスデザイン」の室内ドア、シューズボックスは金属や大理石など非木質系の素材に着目し、木質デザインにそれらの非木質系素材でアクセントをつけ、新たなトレンドを取り入れたこれまでにない意匠性が大きな特長です。



室内ドアには気品漂うカームグレイージュ柄を用い、これにスペイン産の大理石エンパドールをモチーフとしたブラックの石目調をアクセントとして加えることで、和と洋が絶妙に調和した空間を、さらに引き立てました。

JAPANESE MODERN

室内ドアのデザインは全部で264パターン組み合わせが楽しめます

昨今のモダンインテリアの動向をみると、金属やガラスなど木質以外の素材を取り入れて、スタイリッシュな雰囲気を楽しみたいというニーズが増えています。これは、かつて難しかった異素材同士の組み合わせが技術的な進歩によって可能になり、その技術を活用した家具や小物を用いて室内をアレンジするという手法が一般化したことが、ニーズが増加した一因と言えます。

またイタリアのミラノで、毎年4月に開催される世界最大規模の家具見本市「ミラノサローネ」で、数年前から木質系の素材と、非木質系の素材を組み合わせるデザインが紹介されるようになり、その後世界的なブームへと発展したことも大きな後押しとなりました。

8月26日に発売した「マテリアルミックスデザイン」の内装製品(室内ドア、シューズボックス)は、木質系シートと、非木質系シートの突き付け部分が、樹脂モール(溝などを隠すための化粧用部材)でなく、エッジ部分をR形状とすることにより、リアルで高級感のある仕上がりとなりました。

さらに、室内ドアについては、スキスムの基本色柄11種(スキスムS基本色柄7種、スキスムT色柄4種)にレザー調、石目調、金属調のそれぞれ2種の計6種、さらには4種のドアデザインを掛け合わせ、全部で264パターンの中からお好みの組み合わせをお選びいただけるようにしました。

スタイリッシュなデザインの中に使いやすさへの工夫がいっぱい。



**深さのある中段水切りプレートは
食材の仮置きや湯切りにも大活躍**

シンク内に汚れ物があっても、そこに触れることなく、洗った野菜の水切りや食材の仮置きが清潔にできます。また、湯切りの際の飛び散りも防止。シンクを立体的に活かすことで調理がグンとはかどります。



清掃性に優れたフランジレス排水口

排水口の周りの金具をなくし、お手入れしやすさに配慮。水垢などの汚れが溜まりにくく、拭き取り掃除も簡単です。



ダストボックスは隠してスッキリ

引き出しを開けるとフタが自動で開き、ボタンに触れずにゴミを捨てられる「カクステ」。臭いが漏れにくいパッキン付き。



インテリアに合わせて選べる扉デザイン

住む人の感性にマッチする42柄の扉デザインで、お気に入りのインテリアを叶えます。

Skism T 対応

作業効率が上がるインナーポケット

引き出しの内側には、よく使うものをサッと出し入れできるポケットを配置。使い勝手に合わせて配置の変更もできます。

調理プレートで作業スペースを拡張

ヨコ置きの調理プレートをシンクに渡せば、シンクの手前もまな板を使えるスペースになり、効率よく作業を行えます。

日本のキッチンではまだ数少ない、シャープな印象のスクエアシンクを搭載。今やキッチンは、ダイニングやリビングも含めたトータルな空間として考えるのが主流です。「ラフィーナネオ」は、インテリアに調和する洗練されたフォルムにこだわりました。最大の特長は、シャープな印象のスクエアシンクを搭載している点です。日本の普及価格帯のキッチンではまだ数少ないデザインを、当社が培ってきたステンレス加工のノウハウを活かして実現しました。ワークトップの厚みも約20ミリと薄く抑え、モダンに仕上げられています。さらに外観は、ワークトップ、エンドパネル、扉のデザインを組み合わせ、自分らしいキッチンスタイルを選ぶことができます。扉の柄は当社のブランド「スキスム」とコーディネートできるものも

もちろん、意匠性だけでなく機能性も吟味しました。スクエアシンクは清掃性に優れ、プレート類を組み合わせることで調理スペースとしても活用できます。また、キャビネット内には収納の使いやすさを高めるインナーポケットを設け、ダストボックスまでスッキリ収納できるようにしました。「ラフィーナネオ」は、毎日の調理作業で「心地よい」を実感でき、使うほどに愛着のわくキッチンです。

作業効率や収納の使いやすさへのこだわりが毎日のキッチンワークをサポート

含め、12シリーズ計42柄をご用意しました。カフェのようなギヤラリースペースがつくれる「リビングユニット型対面キッチン」をはじめ、レイアウトプランも多彩です。



「リビングキッチン」は家族の広場になる」というコンセプトのもと、当社が今年4月に発売したシステムキッチン「ラフィーナネオ」は、現在の家族の暮らしを徹底的に見つめ直し、より一層、意匠性と機能性を進化させた製品です。

リビングになじむデザインと毎日のかどる調理作業で使うほどに愛着のわく場所へ



日本の原風景

【第二回】奥三河(愛知県東栄町)
「奥三河のナイアガラ」 蔦の淵



大千瀬川にかかる
幅約70メートル、落差10メートルの大滝

雄大な滝と深淵の神秘から古来より様々な伝説とともに竜宮城へ繋がっていると人々に信じられてきた奥三河に流れる大千瀬川にかかる蔦の淵を訪ねてみる。

愛知県名古屋より東へ車を進めると、織田信長が今川義元を打ち取ったことで有名な「桶狭間古戦場跡」が現れる。そこからさらに山間を進んでいくと今度は織田・徳川連合軍と武田軍による天下の合戦「長篠の戦い」の舞台でもある奥三河にたどり着く。

澄み切った大千瀬川は静かにせせらぎを奏で、豊かな森からは、野鳥のさえずりが聞こえてくる。昔、戦乱があったことなど忘れさせてくれるように、ただ静かに時を刻んでいる。

地元の方から蔦の淵に行く道を教えてもらい、木々がひしめく小道を一步一步進んで行くと静寂をかき消すようなゴーツと轟く音が聞こえてくる。大千瀬川を遮るように蔦の淵が目の前に現れた。幅約70メートル



にわたる滝は見るものを魅了する迫力があつた。ここは古来より竜神が住むと信じられており、腕負し伝説や雨乞いの霊場として、人々に厚く信奉されてきた。

日が西の空に傾く中、今にも滝壺から竜神が出てくるようだった。

みどり豊かな山々に囲まれた奥三河では鹿や猪などの新鮮なジビエを味わうことができ、川で獲れる鮎は全国で一番美味しい鮎を競う大会で見事グランプリに輝いた。

名古屋ショールーム

ショールーム紹介

東海エリアを中心に活動しています

名古屋ショールームは愛知、岐阜、三重の東海三県のお客様を中心に活動し、地域のお客様に愛されるショールームづくりを目指しています。

最近ではプロユーザーの方だけでなく、ホームページをご覧になった一般のお客様もよくお見えになります。こうしたお客様には、実際に製品に触れていただきながら、カタログでは伝えきれない当社製品の魅力を細部までご紹介するよう努めています(井上)。

住所 〒454-0806 名古屋市中川区澄池町1-11
TEL 052-354-4310(代)

休館日 水曜日、祝日、夏期・年末年始、5月連休
営業時間 AM10:00~PM5:00



◇名古屋ショールームスタッフ◇
写真左から、小島・松波・森口・井上(ショールームマネージャー)です。

ちよっぴ
一息の

column 木の香りでリラックス

耳に心地よい音をつくる木の特性を活かして、
家族の会話もやさしく響く住まいへ。

人が不快に感じる高周波音を抑え、
聴覚になじむ低周波音を増幅してくれる木。

名器と呼ばれるバイオリンやピアノ、ギターなど、たくさんの楽器が木で作られています。たとえばバイオリンの最高峰といわれるストラディバリウスの表板にはスプルースという木が使われていますが、樹種によって響きも違って来るそうです。また、コンサートホールや劇場といった音響が重要になる建物にも木が多く使われています。なぜ、木という素材は「音」の世界で愛されているのでしょうか。

木を叩いてみると「コンコン」とやわらかく響きます。コンクリートなら「ゴンゴン」という硬い音、鉄は「カンカン」という高い音。これは、吸音と反射のバランスが素材によって異なるためです。コンクリートや金属のような硬い素材は、吸音しにくく反射しやすいので、音はがね返りすぎてうるさく感じます。一方、木は内部に空気を含んだ細胞が集まっているため、コンクリートや金属の何倍もの吸音率を持っています。しかも、人間にとって耳障りな高周波の音は抑え、低い周波数の音を増幅。

人の聴覚になじみやすい、まるやかな音をつくる働きがあります。

インテリアに木を多く取り入れると 音に対するさまざまなストレスが軽減。

一般のご家庭でも、内装などに木を多用すれば、毎日の暮らしの中で耳にやさしい音の響きを楽しむことができます。生活音はもちろん、家族との会話も心地よく聞こえるでしょう。小さなお子さまの甲高い声が響きすぎることもありません。とくに人が集まって過ごすリビングでは、音に対するストレスが和らいでくつろぎ感が高まります。

もっと音が重要になるオーディオルームやピアノ室を計画する場合は、「吸音」と「遮音」の両方のバランスが大切になってきます。吸音性能だけを高めると、音の心地よいエコー(反響)が薄れてしまい、室外への音漏れも防ぐことができません。また、遮音性能だけを高めると室内の音が鳴り響きすぎて不快になります。吸音材や遮音材も適度に組み合わせながら、上手に木の特性を活かしたいものです。

インテリアに木を多く取り入れると同様の音の響きを和らげます。



木で作られた楽器は
まるやかな心地よい音を
作る働きがあります。



市役所や地域の相談員の方々とお話をする中で、障がい者の受け入れ先が不足していることを知り、就労施設とグループホームが隣接している施設を2019年3月にオープンしました。就労を通して働くことの喜びを感じていただき、個々の状況、状態に応じた様々な生活訓練も行っています。また、地域の方々と交流を図るため今年の夏には納涼祭で屋台を出店しました。



【建具】
開口部が広く、段差がないため、車椅子をお使いの方でも出入りしやすいのが特長です。



【折れ戸】
内側、外側の両方から開閉しやすい折れ戸に、レバーの上げ下げで簡単に操作できる錠を取り付けました。



【シューズボックス】
高さは1,545ミリと小柄な方でも安心してご使用でき、下部には便利なフリースペースがあります。



【握りバー】
車椅子の方や障がいのある方の負担を軽減するため、握りやすさと開閉のしやすさを追求しました。



施設代表の声

ご両親が安心して、預けていただける施設を心がけました。

株式会社 恵では現在、就労施設と施設型のグループホームを運営しています。この施設の利用者には身体障がいや、知的障がいを持たれている方が在籍しています。このような方々がストレスなく生活を維持するためにはバリアフリーが必須で、建設会社の方と相談した際に勧められていただいたのが永大産業の「セーフケアプラス」でした。

車椅子を利用する方もおられるので、扉の間口は全て通常より広く、取っ手も太く握りやすいように工夫されており、少ない力で開け閉めができるようになっています。見た目にも温もりを感じる木目調にこだわりました。

当たり前のことですが、日常生活の中でいかに怪我なく快適に過ごすことができる環境を整えられるか、施設の運営ではそれが一番大事だと考えています。



中出 景介 さん 笹本 信幸 さん



最新
納入事例

室内ドア
収納家具

就労支援施設・グループホーム セーフケアプラス



【就労施設／ウィズワークス守山】
障がいの度合いにあわせて軽作業からフリーマーケットでの販売作業など数多くの案件の中からその人にあった仕事を斡旋します。働くことで社会とふれあい、日々の生活の中に喜びを感じていただきます。

【グループホーム／ふわふわ守山】
日常生活の中での生活支援／訓練だけでなく、創作・音楽・余暇活動など日々楽しく過ごせる企画もいっぱいあります。



EDDAはセーフケアプラスで
誰もが快適に生活できる環境を
提供していきます。

日々の生活の中で安心・安全を感じることが出来る空間はどれだけ安らぎを与えてくれることでしょう。「セーフケアプラス」は、そのひとつひとつの心に寄り添う「Hospitality Interior」を目指して進化していきます。いろんな障がいを持つ人たちが集う場だからこそ、誰もが使いやすいと感じるアイテムが必要です。今回は愛知県名古屋市の「ウィズワークス守山」を訪問し、実際にご利用いただいている製品について感想をうかがいました。

工務店・ビルダーの働き方改革②

現場監督の働き方改革と人材難対策

働き方改革関連法案が4月施行されて以降、住宅会社の皆様もその必要性を実感され、制度の改定やITの導入などを実行に移しておられます。しかし、一朝一夕にいかない印象をお持ちの方も多いのではないのでしょうか。特に、成果を実感できていないのは技術系の方々が多いようです。慢性的な人材不足や、業務多忙などの課題を抱え、対策が求められる工事部門の働き方改革への取り組みについて考えてみたいと思います。

監督業務の生産性向上

工程・品質・原価・安全・資材・労務そして顧客管理その他、もともと現場監督の業務は複雑多岐にわたりますので大変です。現場監督が本来やるべき業務は工程・品質管理とお客様対応に力を注ぐことであり、ここに傾注するためにも、工事部門の業務体系を見直し、システム化・標準化を進め、監督業務の生産性向上を図る対策を講じる必要があります。

右に示す内容が監督業務の生産性向上を図るポイントになります。これを参考に、業務改善を進めてください。

(これらを実現するために、ITツールは今や必要不可欠です。コミュニケーションから工程・品質・原価管理、受発注システムまで広がっているものなど、色々なITツールが販売されていますが、それぞれに得意分野があるようです。どれが自社に適しているか、情報を自ら取得し、自分の目で確かめることが大切です。)

多様な人材の活用

人材不足対策として、多様な人材の活用も注目されています。

最近では、建設現場で外国人が作業をしているのが当たり前の光景となりました。最近では、住宅会社の中でも、中国をはじめ東南アジアなど諸外国からの人材登用が見られるようになってきました。国民性の違いなどで苦労する場面も見受けられますが、この流れはさらに進んでいくでしょう。

さらに目立つのは、住宅業界未経験者の積極的な活用です。工事部門のシステム化・標準化が進んでいる住宅会社では、未経験者に品質管理業務を担当させる取り組みも見られます。品質基準が明確でチェックリストがあれば、専門職でなくとも短期間の教育(1~2か月)で実践できるようになりますので人材不足対策として有効です。監督業務の効率アップにもつながりますし、人材の新規採用促進にも繋がります。

また、女性の監督・職人さんを採用している住宅会社も多くなっています。それに合わせて、女性にも働きやすい職場環境として、現場きれいを重視する住宅会社が増えています。最近では現場のトイレが話題になったりもしていますね。

今回は、工事部門の働き方改革として、監督業務の生産性向上、そして多様な人材の活用を中心に紹介してまいりました。前提である業務のシステム化・標準化から、上記を参考に改善を実行し、陽の当たる業務に変えていただきたいと思います。

住宅産業塾 工務店応援通信ブログ版もぜひご覧ください。工務店応援通信ブログ：<https://www.jyutakujuku.com/>

EIDAI HISTORY 第2回 ステンレス加工技術編

当社ではよりよいものづくりを行うため、これまでに様々な技術開発に取り組んできました。第2回はステンレス加工技術にスポットを当ててご紹介いたします。

1969年キッチン事業に参入

当社が「永大キッチンセット」を上市し、キッチン事業に参入したのは1969年のことです。

錆びにくく、手入れもしやすいステンレスに着目した当社は1973年10月、大阪府南河内郡美原町(現・堺市美原区)に、ステンレス加工を行うキッチン美原工場(現・大阪住設工場)を開設しました。

70年代の初めはまだ、流し台や調理台、ガスコンロの専用台がそれぞれ分離した「セクショナルキッチン」が主流でした。1974年、当社は内製化初となるセクショナルキッチン「ピアライン」を発売しました。70年代中頃になるとシステム化、すなわち流し台や調理台等が1枚のワークトップによってシステム化されたステンレスキッチンが普及し始めます。

1982年に当社は、業界初となるステンレスと特殊強化の天然木を組み合わせたワークトップをもつシステムキッチン「ピアロイヤル」を発売しました。



システムキッチン「ピアロイヤル」

四方段押しによる水返しで差別化

ステンレス加工の内製化に着手して10年が経ち、ステンレスの加工技術を蓄積していった当社は、独自の形状を有する製品を生み出すようになりました。それがワークトップの水返しに用いる「四方段押し」の加工です。

ワークトップの水返し処理を行う場合、一般的に両側エッジ部分にキャップをかぶせる「サイドキャップ仕上げ」を行います。当社では中々高級品にこのサイドキャップを用いず、ステンレスを正確に折り曲げ、溶接し、美しく仕上げる「四方段押し」を基本としています。この加工は熟練の技術者が一つひとつ丁寧にハンドメイドで行います。

1983年、当社はこの四方段押しによる水返しで差別化を図った「ピアシステム」を発売しました。

その後当社は、ステンレス加工の技術に磨きをかけるとともに、キッチンの使い勝手の良さを追求し、清音シンクやシンクの高さを使い分けできるレイヤードシンクを開発しました。



四方段押しによるワークトップの水返し

キッチンにスクエアシンクを搭載

2004年、当社はこれまで培ってきたステンレス加工のノウハウを活かし、プロの技が生み出したキッチンというイメージを前面に押し出して、キャビネットのないオールステンレス製のキッチン「ゲートスタイルS-1」を開発しました。続く2007年にはキャビネットの内部に至るまでステンレスを使用したステンレスキッチン「ピアサスS-1」を発売しました。

一口にステンレス加工といっても奥が深く、たとえばデザインを優先させてワークトップの厚みを薄くすると、強度が落ちるなどの問題が発生します。

2019年、当社はこのような問題を解決し、シャープな印象を与えるスクエアシンクを搭載したシステムキッチン「ラフィーナネオ」を完成させました。

通常、オーダーメイドや海外のキッチンで見ることのないスクエアシンクは、プレス加工でなく当社の溶接加工技術によって生み出されました。



ラフィーナネオのスクエアシンク

1946 (S21)
 1950 (S25)
 1955 (S30)
 1960 (S35)
 1965 (S40)
 1970 (S45)
 1975 (S50)
 1980 (S55)
 1985 (S60)
 1990 (H2)
 1995 (H7)
 2000 (H12)
 2005 (H17)
 2010 (H22)
 2015 (H27)
 2019 (H31)

編集後記

本号でご紹介した株式会社 恵様が運営する就労支援施設・グループホームの「ウィズワークス守山」では、軽度の障がい者の皆さんが実際に働いてお給料をもらい、その喜びを実感してもらうことで、実社会での就労へ向け一歩を踏み出す取り組みを行っておられます。

障がい者に対する支援は地域全体で取り組む課題ですが、同施設では積

永大産業株式会社 マーケティング部 広報課 ©2019Eidai Co., Ltd.

極的に祭りなどに店舗するなど地域に溶け込む努力をされており、その時の楽しそうなたくさんの笑顔の写真が壁一面に貼ってあるのが印象的でした。

短時間の訪問ではありましたが、そのような施設で当社のセーフケアプラス製品がお役に立てていることに、喜びを感じた取材でした。